



誰もが住んでみたい村に
農業農村整備

ぐんま集排だより



スマイルボウリングを楽しむ下増田地区の人たち

処理施設を訪ねて

前橋市下増田地区 運営委員長 北爪 甲子太
自治会長 北爪 弥平

下増田地区について教えてください。

下増田地区は、前橋市の南東部、一級河川広瀬川と荒砥川に挟まれた平坦地で、農地の整備は済んでいましたが、家庭から出る生活排水で水路は汚れ、個人の力ではきれいにするにも限界がありました。

事業への取り組みと処理施設について教えてください。

下増田地区は、昭和61年度採択で集落排水事業としては県下で6地区目、前橋市内で2地区目の地区です。予備調査が始まった昭和60年より準備金として、一戸当たり3千円/月で、5年間で18万円程度の積立金を目標にして始めることになりました。また、処理地区については、最上流部の人家周辺は、行政区域が入りこんでいたため、上増田町の一部(20戸程度)を取り込むことになりました。

処理場用地は、市所有地が利用できたため、他に比べて広く、処理場用地内にはPRも兼ねて処理水を利用した池で金魚が飼われています。また、処理場用地の一部を利用して、スマイルボウリングによる地域住

民のコミュニケーションが図れる様にコンクリート造の4レーンが設置されており、各組対抗の試合も行っています。

現状及び今後の課題についてお聞かせ下さい。

平成元年8月に供用を始め、各戸の接続も順調に進みましたが、各家庭の使用水量が多いのか計画流入水量を超える状況になってきました。今後、北関東自動車道のアクセス道路の整備計画等により、ますます人口増が見込まれるため、処理施設の増設等が必要になるのではと考えています。地元としては、この施設を大切に使うて住みよい村づくりを進めていきたいと願っています。



下増田地区処理施設全景

農村下水道の整備と協議会の役割

1 農村下水道の特徴

事業は次のような特徴があります。

①数集落を範囲とした小規模な施設です。

②浄化された水は水路や河川へ戻り、農業用水などに復して利用されます。

③計画から維持管理まで、皆さんの参加により「自分たちの施設」として利用していただきます。

④処理施設から出る「汚泥(おていこ)は、農地へ戻す工夫をして、資源のリサイクルを図ります。

2 県協議会の役割

この協議会は、各地区の共通する課題を話し合ったり、お互いの情報を交換する目的で発足しました。主な活動は次のとおりです。

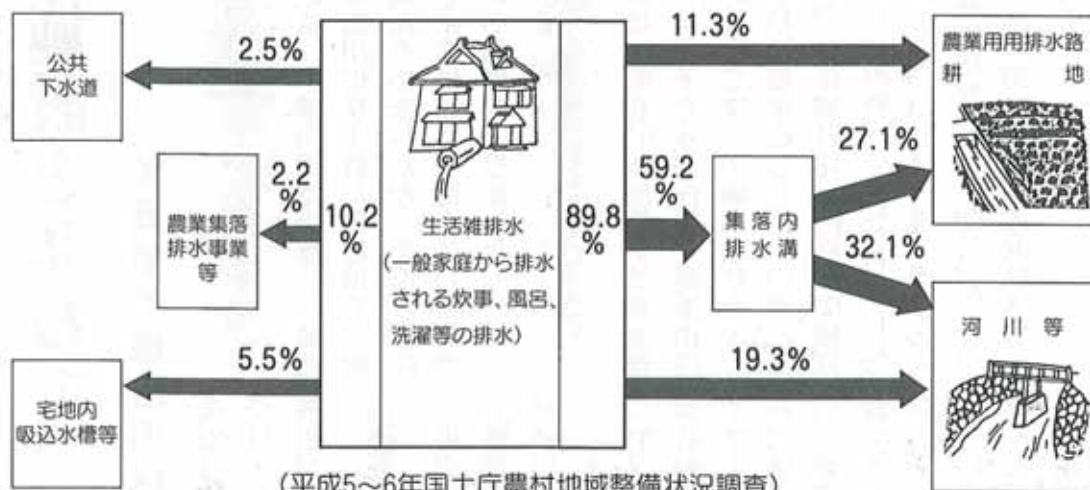
- ①供用地区の維持管理・汚泥処理などの共通課題を調査研究します。

皆さんが住んでいる農村は、日本全体では総人口の4割が住んでいて、大切な住居・就業の場です。また、安全で新鮮な食料の生産の場でもあります。さらに、国土を災害から守ったり、都市に住む人の憩いの場・交流の場としても大きな役割ももっています。

でも、農村も人口が増えたり生活に使う水量が増えて、農業用水や河川がとも汚れてきました。その主な原因は、我々の生活から生まれる排水(生活雑排水)です。お風呂場や台所、洗濯からの排水は量も多くそのまま水路などに流れ込んでいます。カヤハ工のいないように、トイレの水洗化もぜひ実現したいものです。

大部分の農業集落では、生活雑排水がそのまま農業用水路等に流されています。

群馬県の農業集落における生活雑排水の処理状況



- ②先進地への現地研修などを行い、理解を深めます。
- ③実施地区の事業が円滑に進むよう、協議会として各方面へ働きかけを行います。
- ④市町村協議会・全国協議会と連絡を取り必要な協議を行います。

平成7年度 活動報告

- 平成7年7月・農業集落排水緊急整備事業の対象期間延長についての陳情等
- 〃 7月・視察研修(下水道展, 東京, 34人参加)
- 〃 8月・生活関係普及活動等関係担当者職員研修会(東京, 7人参加)
- 〃 9月・全国農業集落排水事業推進協議会 通常総会(東京, 10人参加)
- 〃 11月・現地研修(宮城南郷町、真空式流送方式及び回分式処理施設視察, 41人参加)
- 平成8年2月・代表幹事会及び役員会
- 〃 6月・代表幹事会及び役員会
- 〃 6月・研修会及び通常総会

表紙題字 群馬県農業集落排水事業連絡協議会
会長 北爪 甲子太氏

※表紙題字左の「さなえマーク」は、事業の3つのキーワードである「土、人、水」を、また「生産基盤、生活環境、国土保全」をイメージしており、大地を覆う緑、田畑、美しい自然とともに歩む農業農村整備事業を象徴的に表現したものです。

発刊に寄せて

群馬県農業集落排水連絡協議会

会長 北爪 甲子太



関係皆様のご指導とご協力をいただき、会員の研修、親睦をはじめ幾多の事業活動を行ってきました。

平成3年9月、群馬県農業集落排水事業連絡協議会が設立されて5年が経過しました。この間、県並びに県土連等、

特に農村整備事業や農集排水新規事業等については関係市町村長さんや関係皆様のご尽力をいただき、国会並びに関

係省庁等に陳情請願し、予算の確保、事業の推進等につとめてきました。お陰様で現在本県では30市町村、75施設となり、受益者も約2万戸に及んでいます。

また、このほど機関紙「ぐんま集排だより」を発刊することになりました。組織の皆様との連携、事業の推進拡大、適正な運営管理等、地域の生活環境づくりにお役に立ち、より快適で豊かな、住みよい農村

発刊を祝って

群馬県農政部農村整備課

課長 笠原 滋



「ぐんま集排だより」の創刊にあたり、一言お祝い申し上げます。

農村の生活環境の向上と農業用水や河川の水質保全を目

的に発足した「農業集落排水事業」(農村下水道)は早くも13年を迎えました。その間着実な伸びを見せ、現在31地区で4万6千人の皆さんが利用できるまでになりました。あなたのお宅ではもう利用されていますか。工事中の地区は44地区となります。工事中何

かと不便な点があるでしょうが、皆さんで協力して無事に工事が終わるよう願っています。「これから事業を進めたい」という地区もたくさんありますので、今後も「快適な農村づくり」をめざして整備を進めていきたいと考えています。この「ぐんま集排だより」は、こうした皆さんからのご意見をお寄せいただき、皆さんと協議会との情報交換の場として利用されるよう、私どもも期待しています。

富士見村

横引地区

主婦 田村 節子

県都前橋市に接する富士見村は、赤城山の南麓に広がる人口約2万人の都市近郊農村です。

利用者の声

平成3年に「美しい自然、快適な環境づくり」をめざして農業集落排水事業が供用開始され、私の住む横室地区は最初に利用ができました。あれから4年が経過した今日、トイレは水洗になり以前のような悪臭もなくウジ、ハ工対策に頭を悩めることもなくなりました。また、足、腰の弱い両親も安心して使用出来るのでとても喜んでおります。そして、もう二度と汚れた洗濯水や生活雑排水も川を流れる事はありません。私は施設の利

用にあたり排水口にネットをつけたり油・みそ汁、正油等は流さず洗剤も出来る限り少量にしています。このように利用者一人一人が心配りをして処理施設を大切に利用していきましよう。

編集後記

今回は創刊号ですが、今後皆様の声を紙面に反映させて年1回程度発刊したいと思えますので県協議会活動推進のため、温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

発行者
群馬県農業集落排水連絡協議会
事務局
群馬県土地改良事業団体連合会
〒371 前橋市箱田町350番地
TEL 0272-51-4105(代)

編集人 北爪 甲子太
印刷所 工業
(有)小沢印

各地域に立派な処理施設が完成し、快適な環境づくりが進んでいます。

処理施設はお金をかけて造った地域の財産です。みんなで処理施設を大切にしましょう。みなさん一人一人が協力することにより施設は故障することもなく、長持ちし管理費の節減になります。

これからの時代は奉仕の心が大切です。これは、自分自身の向上にも役立ちます。

住み良い環境は、自分自身が住みやすい環境をつくることです。豊かな地域づくりは香り高い文化人の心で育ちます。

群馬県農業技術課
課長補佐
原澤カヅヨ

家庭でできる水を汚さない工夫

みんなの処理場を大切に使うために

台所では

調理くずを流さないために



三角コーナーにはろ紙を使いましょう。



排水口には、目の細かいストレーナーを使いましょう。



米のとぎ汁は種木にかけると肥料になります。(養分が高いため種木から少し離してかけましょう)



生ゴミはごまめに回収し、土に埋めるかゴミとして出しましょう。



汚れのひどい食器や鍋などは、紙でふきとってから洗いましょう。



河川にとって油は大敵。天ぷら油は使いきるか、新聞紙などに吸わせてゴミとして出しましょう。油を固めてしまう商品も市販されています。

洗たくでは



洗剤は正しく計って、使いすぎないようにしましょう。ためすぎや部分洗いもと入れましょう。



洗剤を多く入れても汚れの落ちに、ほとんど変わりがなく、かえってすすぎが大変になるだけです。

その他



風呂の残り湯は、洗たくや散水などに再利用しましょう。



地域ぐるみで定期的に河川や水路の清掃を行いましょう。

河川にゴミを捨てるのはやめましょう。

- ちょっとした心づかいで汚れを2~3割も減らすことができます。
- 今日からはじめましょう。